

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は軟調な動きか

[10月7日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月30日～10月4日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.98	108.47(1)	106.48(3)	106.82	-1.10
ユーロ・ドル	1.0946	1.0999(3)	1.0879(1)	1.0974	+0.0034

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	21,410.20	-468.70	日本10年債利回り	-0.213 +0.022
ダウ平均株価	26,201.04	-619.21	米10年債利回り	1.534 -0.146

=====

<来週の主要経済統計等>

- 7日 日本8月景気動向指数速報値
 - 独8月製造業受注指数
 - 英9月HBO S住宅価格
- 8日 日本8月勤労者世帯家計調査
 - 日本8月经常収支
 - スイス9月雇用統計
 - 独8月鉱工業生産指数
 - 米9月生産者物価指数
- 9日 米MBA住宅ローン申請件数
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (9月17～18日分)
- 10日 日本8月機械受注高
 - 独8月貿易収支、独8月经常収支
 - 英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支
 - 米9月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
 - 米9月財政収支
- 11日 独9月消費者物価指数
 - 米9月輸入価格指数
 - カナダ9月雇用統計
 - 米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米中貿易協議に関する米中両国、特にトランプ発言に振り回されやすい状況に変化はないとした。ドル円は底堅く推移しており、極端に大きく上下に振れにくいとみられ、107～108円台を中心に一進一退の動きが見込まれるとした。

【米経済指標の悪化でドル売りの動き】

9月27日にトランプ政権が対中投資の制限や米国に上場している中国企業の上場廃止を検討しているとの報道を受けて、米中対立が激化すると警戒感が広がった。ただ、その後、米政府高官がこの報道を否定したことから米中協議進展への期待感が広がった。NYダウは9月27日に70ドル安となったものの、9月30日には96ドル高となり、下げを取り戻した。

1日は米中貿易協議への期待感から米国株は高寄りした。ところが、9月の米ISM製造業景況指数が47.8となり、約10年ぶりの水準まで低下した。これを受けて米国での景気減速への警戒感が広がり、NYダウは343ドル安と大きく下げた。ドル円は108円台半ばから107.60円台まで値を崩した。

2日の米国株式市場では、前日の米ISM製造業景況指数の弱さに加えて、9月の米ADP雇用統計が予想から下振れしたことが嫌気されて、大幅安となった。NYダウは494ドル安と急落した。リスク回避の円買いの動きからドル円は107円近くまでドル安円高が進んだ。

3日の東京市場では、さらに円高が進んで一時107円の節目を割り込んだ。この日の米国市場では9月の米ISM非製造業景況指数が下振れしたことで、NYダウは一時330ドル超の下げとなった。ただ、10月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ見通しが広がったことで、米国株は持ち直して、NYダウは122ドル高で引けた。ドル円は一時106円台半ばまでドル安円高が進んだ。

CME FEDウォッチでは、10月のFOMCでの利下げ確率は4日時点で88%前後まで上昇している。2週間ほど前には30%近辺で推移していただけに、米ISM製造業景況指数、米ADP雇用統計、米ISM非製造業景況指数といった一連の米経済指標の悪化が米国の景気後退懸念につながり、利下げへの思惑が高まることとなった。

米国での景気減速への警戒感から米国の利下げ期待が高まりを見せていることで、ドル円は上値の重い展開が続いている。今後の米中貿易協議の進展期待はドル円にはプラス要因とはなるものの、米国の経済指標の悪化が続いており、ドル円は軟調な動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、105.50~108.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本8月景気動向指数速報値、8日に日本8月勤労者世帯家計調査、日本8月経常収支、米9月生産者物価指数、9日に米MBA住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(9月17~18日分)、10日に日本8月機械受注高、米9月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米9月財政収支、11日に米9月輸入価格指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルの戻りは限定的か】

9月30日に発表された9月の独消費者物価指数は前月比、前年比ともに予想を下回った。ドイツやユーロ圏の経済指標は弱いものも散見され、ユーロドルの重石となっている。ユーロドルは1日に1.08台後半まで下落したものの、米経済指標の悪化でドル売りの動きとなって、戻りを見せている。

ただ、ユーロ圏の景気減速懸念は根強く、ユーロ独自の買い要因には乏しいことで、ユーロドルの戻りは限定的となりそうだ。ユーロドルは戻りが一服すると再び下げに転じる展開か。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0800~1.1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に独8月製造業受注指数、英9月HBO S住宅価格、8日にスイス9月雇用統計、独8月鉱工業生産指数、10日に独8月貿易収支、独8月経常収支、英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支、11日に独9月消費者物価指数、カナダ9月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートが利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送

